

文部科学省と国立大学附置研究所・センター 個別定例ランチミーティング

第3回 京都大学人文科学研究所 (2022.5.20)

1. 京都大学人文科学研究所の概要と活動 稲葉穰所長
2. 環世界研究の拠点として：京都大学人文科学研究所の挑戦
石井美保准教授
3. 質疑応答

【お願い】

- ☆担当研究所・センターを「共同ホスト」として設定いたしますので、司会進行をお願いします
- ☆録画等される場合は「コンピュータ上に保存」をお願いします（当方では録画等していません）
- ☆13時になりましたら、「共同ホスト→ ホスト」に設定変更の上、NPO担当者は退席いたします。

1. 沿革

- 国策研究所から京都大学附置研究所へ
 - 東方文化学院/東方文化研究所(外務省)
 - ドイツ文化研究所(民間)
 - 人文科学研究所(京都大学)



- 京都大学人文科学研究所(1949年)

- 附属東洋学文献センター設置(1965年)
- 漢字情報研究センター(2000年)
- 東アジア人文情報学研究センター(2009年)



共同利用・共同研究拠点 (2010年)
「人文学諸領域の複合的共同研究国際拠点」

共同研究の開始

- ・ 漢籍会読
- ・ 文学研究
- ・ フィールドワーク

人文学と自然科学の融合

直轄研の母胎

- ・ 国立民族学博物館
- ・ 国立日本文化研究センター

2022/3/9 京都アカデミックブリッジ
(日文研・京都新聞社)



3研究機関 相互の歩み

民博	日文研	人文研
■1935 渋沢敬三、白鳥庫吉ら 「日本民族博物館」設立を計画 ■1964 日本民族学会、日本人類学会、 日本考古学会、日本民俗学会 および日本民族学協会が、文部相 などに国立民族研究博物館設置 を要望 ■1970 大阪万博を開催 (民博は、万博会場跡地に立地) ■1972 「民族学研究博物館の調査会議」 (座長・桑原武夫)が文部相に 基本構想提出 ■1974 国立学校設置法の一部改正で、 国立民族学博物館を創設 ■1977 開館式典。初代館長は梅棹忠夫 ■1978 京都市が「世界文化自由都市 宣言」 ■1981 同自由都市推進委・委員長に 桑原武夫 ■1985 「国際日本文化研究センター 調査会議」を民博に設置 ■1987 大学共同利用機関として京都市 に設置。初代所長に梅原猛 ■1990 現在地に移転、開所式 ■2004 大学共同利用機関法人・人間文化研究機構が発足、 民博、日文研は機構の一員に ■2017 開館40周年	 桑原武夫 (1904~1988) ■1975 本館を東一条に建設 (現在の京大高等研究資料館、 人文研は2008年、吉田キャン パス内に移転) 北白川の本館は、東洋学文献 センターに (2009年、東アジア人文情報学 研究センターに改組) ■1979 創立50周年  梅原 猛 (1925~2019) ■2017 創立30周年	■1929 東方文化学院京都研究所設立、 38年、東方文化研究所に名称 変更 ■1934 独逸文化研究所設立、46年に 西洋文化研究所に名称変更 ■1939 人文科学研究所(旧人文)設立 ■1949 3機関の合併で人文科学研究所に ■1959 桑原武夫が所長就任(63年まで) ■1979 創立50周年 ■2019 創立90周年 ※京都新聞社作成

*2022年4月1日在籍者

教授 22/准教授 18/助教 11/

京都大学白眉研究員 6/人文学連携研究者 7

2. 人文研の活動

(1) 共同研究

- ・ 共共拠点事業としての課題公募型共同研究 (R4年度 10件)
- ・ 人文科学研究所伝統の小規模頻回共同研究 (R4年度 20件)

(2) 教育活動

- ・ 研究科での授業担当・学生指導

(文学研究科, 人間環境学研究科, 経済学研究科, 情報学研究科, アジアアフリカ地域研究研究科)

- ・ 共同研究会における大学院生、若手研究者の指導

(R2年度: 大学院生のべ631名、若手研究者(35才以下) のべ1297名が参加)

(3) 社会貢献

- ・ 一般向け公開講座、他機関との連携講座 (R2年度 21回開催)
 - ✓ 人文研アカデミー: 人文研の主催する公開講座、シンポジウムなど
 - ✓ Kyoto Lectures: フランス極東学院、イタリア東方学研究所と共催 (月例)

- ・ 京大人文研東方学叢書(臨川書店より既刊11冊)



2-1. 共同研究（視角からの分類）

世界的視座から文化の創成・接触・変容を研究

3つのコンセプト

テーマ1 文化基盤の形成

- 清代～近代における経学の断絶と連続
- 日本の伝統文化を問い直す
- 仏教天文学説の起源と変容
- 「語りえぬもの」を語る行為とその思想的表現に関する学際的研究
- 近代日本の宗教と文化
- 近現代日本の研究資源に関する基礎的研究
- 20世紀中国史の資料的復元
- 秦漢法制史料の研究
- 東アジアの宗教美術と社会
- 毛沢東体制と公安警察に関する歴史的考察

文化基盤 の形成

地球社会と 共存

接触と コンフリクト

テーマ2 接触とコンフリクト

- 東方ユーラシア馬文化の研究
- 人物で見る第二次世界大戦
- インドにおける「循環的存在論」の形成
- チベットにおけるコミュニケーションツールの研究
- 近現代中国の制度とモデル
- 帝国日本の「財界」形成についての研究
- 前近代ユーラシアにおける戦争と外交
- 前近代内陸アジアとその隣接地域の社会と文化
- 北朝石窟寺院の研究
- 中国在家の仏教観

テーマ3 地球社会と共存

- 実験性の生態学
- 東アジア災害人文学の構築
- ポスト・パンデミック世界の新しい社会・環境理論にむけて
- 科学的知識の共同性を支えるメディア実践に関する学際的研究
- 環境問題の社会史的研究
- 人の分類と人種化に関する国際比較研究
- ポスト=ヒューマン時代の基点としてのフランス象徴主義
- 芸術と社会
- 家族と愛の研究
- 古典中国語のコーパスの研究
- 東方文化研究所旧蔵漢籍の整理と研究
- 漢籍共同研究システムの構築

（赤字は課題公募班）

2-2. 共同研究（方法論および対象領域による分類）

I. 古典・資料研究：

— 古典文献、近代史料の解読、訳注作成、貴重史料の情報化と情報発信

- ・ 東アジア人文情報学研究センター（全国漢籍データベース, デジタル東方学図書館, 拓本文字データベース）
- ・ みやこの学術資源研究活用プロジェクト

II. 近現代史研究：

— イタリア無敵の栄光と没落

- ・ 日本、アジア、ヨーロッパ近現代社会についての研究と考察
丸山 宏・伊従 勉・高木博志 編
- ・ 附属現代中国研究センター（石川禎浩教授 R3年司馬遼太郎賞, アジア・太平洋賞受賞）
- ・ みやこの学術資源研究活用プロジェクト

III. 環世界研究：

— 人文学が主体となった、環境に関する総合的学知の現出

- ・ 「ポスト・パンデミック世界の新しい社会・環境理論に向けて」
- ・ 「実験性の生態学—人新世における多種共生関係に関する比較研究」
- ・ 「環境問題の社会史的研究」

みやこの近代

2-3. 共同研究（方法論および対象領域による分類）

古典資料・近現代史・環世界

古典・資料研究

- 「語りえぬもの」を語る行為とその思想的表現に関する学際的研究
- 東方ユーラシア馬文化の研究
- チベットにおけるコミュニケーションツールの研究
- 前近代ユーラシアにおける戦争と外交
- 前近代内陸アジアとその隣接地域の社会と文化
- 古典中国語のコーパスの研究
- 北朝石窟寺院の研究
- 中国在家の仏教観
- 東方文化研究所旧蔵漢籍の整理と研究
- 漢籍共同研究システムの構築
- 秦漢法制史料の研究

古典・資料研究

環世界研究

近現代史研究

近現代史研究

- 清代～近代における経学の断絶と連続
- 人物で見る第二次世界大戦
- 毛沢東体制と公安警察に関する歴史的考察
- 近現代中国の制度とモデル
- 近代日本の宗教と文化
- 近現代日本の研究資源に関する基礎的研究
- 帝国日本の「財界」形成についての研究
- 20世紀中国史の資料的復元
- ポスト=ヒューマン時代の基点としてのフランス象徴主義
- 家族と愛の研究

環世界研究

- 日本の伝統文化を問い直す
- 実験性の生態学
- 仏教天文学説の起源と変容
- 東アジア災害人文学の構築
- ポスト・パンデミック世界の新しい社会・環境理論にむけて
- インドにおける「循環的存在論」の形成
- 環境問題の社会史的研究
- 芸術と社会
- 東アジアの宗教美術と社会

（赤字は課題公募班）

3. 国際連携

Laboratoire d'Excellence

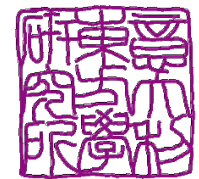
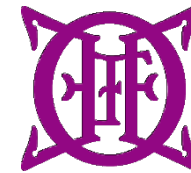
tepsis

Transformation de l'Etat
politisation des sociétés
institution du social



- アジア、ヨーロッパからの研究者、学生の受け入れ
- 外国研究機関との緊密な連携

- フランス国立極東学院
 - イタリア東方学研究所
 - ハーヴァード燕京研究所
 - 臺灣国家図書館漢學資源中心
- など18機関と学術交流協定



HARVARD-YENCHING
EST. INSTITUTE 1928



- 国際共同研究への参加
 - TEPSIS (@EHESS/フランス社会科学高等研究院)
 - ウィーン大学/オーストリア科学アカデミー

4. 今後の方向性：新しい時代の人文科学へ

・ 人文学学術資源のオープン化

－ 人文情報学研究センターの設置（予定）

- ・ 漢字史料、フィールドワーク資料の整理・研究と情報化
- ・ 日本近現代史料の調査発掘と整理（市民セクターと共同で調査研究）
 - 地域の活性化と文化学術資源の保全継承
 - 人文学における社会との共創モデル
- ・ 人文情報学プラットフォームを通じた情報発信と、中小美術館、資料館による小規模アーカイブの構築支援

▶ 社会基盤としての文化学術資源の整備

・ 環世界の人文学

- － ポスト・パンデミックの世界をどう生きるか？



環世界研究の拠点として

京都大学人文科学研究所の挑戦

石井美保

京都大学人文科学研究所 准教授

はじめに：人文諸科学における環境への 問題意識

- 気候変動、環境問題
- 「人新世」概念の応用と批判
- 人文諸科学における人間中心主義の見なおし



- 多種間の共生の手がかりとしての「**環世界**」概念（ユクスキュル、ヴァイツゼッカー）

関連する共同研究プロジェクト

「環境インフラストラクチャー：
自然、テクノロジー、環境変動に関する比較研究」
(2013-2016)

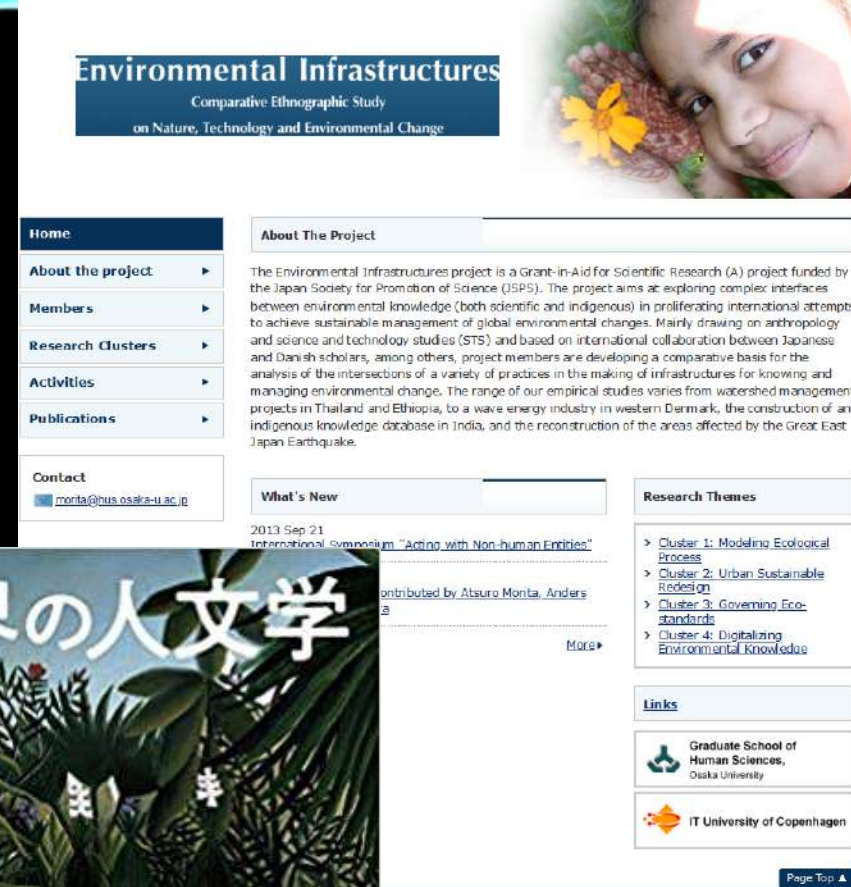
森田敦郎(大阪大学)・石井美保(京都大学)

「環世界の人文学」

第1期 「環世界の人文学—生きもの・なりわい・わざ」
(2015-2017)

第2期 「生と創造の探究—環世界の人文学」
(2017-2020)

成果論集『環世界の人文学』(人文書院、2021年)



京都大学人文科学研究所 共同研究拠点プロジェクト 2020ー

- 「実験性の生態学：人新世における多種共生関係に関する比較研究」
- 研究期間：2020年4月～2023年3月
- 共同研究班長 モハーチ ゲルゲイ(大阪大学人間科学研究科)
- 副班長 石井美保(京都大学人文科学研究所)

EXPERIMENTAL ECOLOGIES

実験性の生態学

人新世における多種共生関係に関する比較研究

- 科学実験の現場：実験室から社会へ

e.g. 新薬の臨床試験、遺伝子組み換え作物の試験栽培

- 背景：科学技術への市民参加の拡大、データ処理技術の急激な進歩など、社会的かつ科学技術的な要因

- **実験性** (experimentality): 科学実験が実験室から社会全体へと拡大していく展開

- 本研究の視座：

- この「実験性」の時代において、人間と環境との相互作用がどのように再秩序化されるのか？

- 人新世(anthropocene)に関する学際的研究、「環世界」研究、共生研究との対話を通して検討する。

EXPERIMENTAL ECOLOGIES



≡ MENU

A Comparative Approach to Multispecies Coexistence in the Anthropocene is a collaborative research project funded by the Institute for Research in Humanities at Kyoto University for 3 years (April 2020 – March 2023). Its focus in general is on the entanglement of experimental practices at large and the transformation of social-ecological landscapes. Our team is made up of historians, anthropologists and STS scholars based in Japan.

AIM OF THE PROJECT

実験性の時代における新たな共生とは

- 科学技術への期待やイノベーションの状況が共生そのものの存在論的な基盤となることを人文科学の視点から研究・分析する。
 - **目的①**: 人間と他の生物との共生関係の変遷を比較研究し、「実験性」の時代における共生関係の政治的・科学的・情動的な展開を明らかにする。
 - **目的②**: 人新世の人文科学における方法論の展開を受け、「実験的な多種共生の可能性」を提示する。
- 
- 人間 対 自然という二項対立の見なおし
 - 人間中心主義的ではない共生の可能性を探究



≡ MENU

研究紹介

研究概要

近年、新薬の臨床試験や遺伝子組み換え作物の試験栽培が例示するように、科学実験の現場は実験室から社会へと浸透していく傾向が顕著に見られる。この展開の背景には、科学技術への市民参加の拡大や、多種多様なデータ処理技術の急激な進歩など、社会的かつ科学技術的な要因が挙げられる。このような従来の科学実験が閉鎖された空間と時間から、社会全体へと拡大していくという展開を「実験性」(experimentality)と呼ぶことができる。本研究では、この「実験性」において人間と動植物との相互作用がどのように再秩序化されるのかを、国内外の人文・社会科学で近年関心が高まる「人新世」(anthropocene)と日本で展開している「環世界」および共生研究との対話を通して比較検討する。科学技術への期待やイノベーションの状況が共生そのものの存在論的な基盤となることを人文科学の視点から分析研究するために、本研究では目的を二つ設定する。一つ目の目的は、人間と他の生き物との共生関係をめぐる変遷を描き出す事例の比較研究を重ね、「実験性」における共生関係の政治的、科学的、情動的な結び付きを明らかにすることである。二つ目の目的は、人新世の人文科学における水平的な方法論の展開を受け止めて、「実験的な多種の可能性」を提示することである。

MEMBERS



- モハーチ ゲルゲイ（大阪大学：文化人類学、STS、医療、身体）
- 石井美保（京都大学：文化人類学、環境問題、宗教実践）
- 鈴木和歌奈（大阪大学：科学技術社会論、iPS細胞、発酵）
- 瀬戸口明久（京都大学：科学史、環境、害虫）
- 石川登（京都大学：文化人類学、熱帯雨林、多種関係の民族誌）
- 森田敦郎（大阪大学：文化人類学、STS、環境デザイン、気候モデル）
- 中空萌（広島大学：文化人類学、知的所有権、環境と法）



FOCUS

- FOCUS1: Metabolic togetherness 代謝と共生
- FOCUS2: Transition design/ participation 環境デザインと市民参加
- FOCUS3: Laboratory and fieldwork 実験室とフィールドワーク
- FOCUS4: Umwelt and biodiversity conservation 野生生物保護
- FOCUS5: Experiments in decomposition 発酵の実験性
- FOCUS6: Experimentality and decolonial politics 脱植民地化の政治
- FOCUS7: Ethnographic experiments 実験的民族誌

CONSERVATION, EXPERIMENTS, AND BIOPOLITICS

野生生物保護、実験、生政治

人文研共同研究班

実験性の生態学：人新世における多種共生関係に関する比較研究

京都大学人文科学研究所

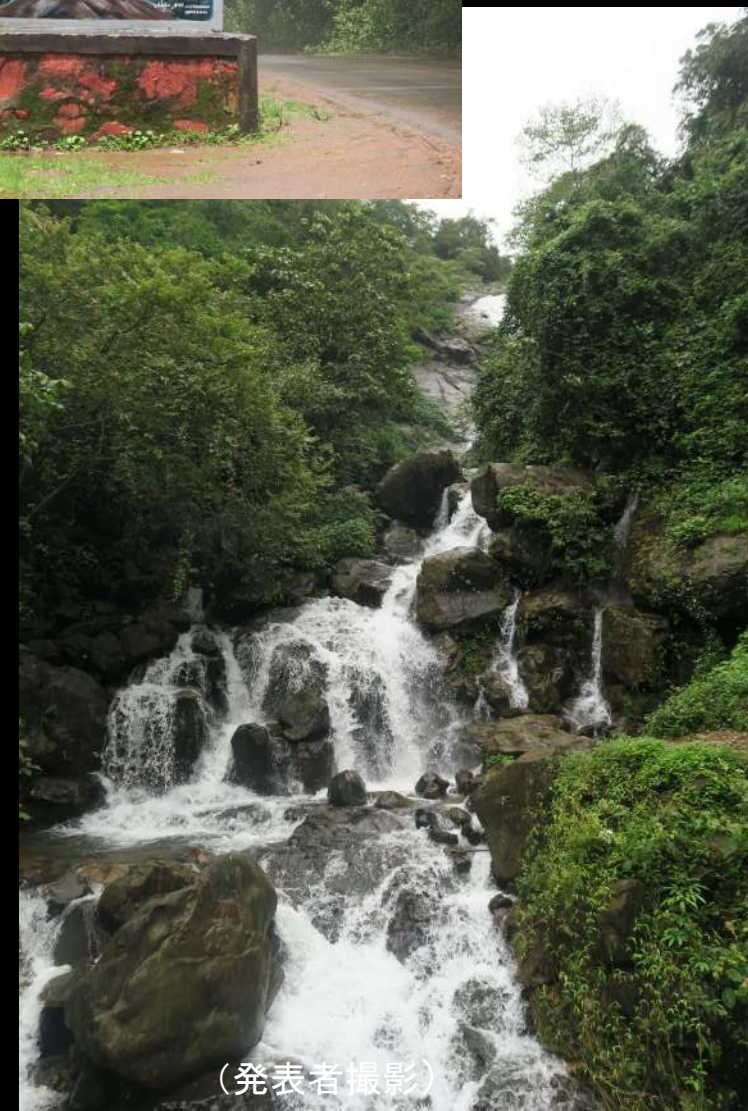
石井美保

自然保護、実験、テクノロジー

- 近年の自然保護にみられる問題：種の選別、住民の監視、「軍事化」
- 誰がどのように自然を管理・統治するのか？
誰がどのように種や人間を価値づけるのか？
- **野生生物保護という実験**：環境のガバナンスに関する問題であり、生政治をめぐる問題
→政治的論争と倫理的判断を伴う実験場としての自然保護区
- 実験場としての自然保護区における新たな共生とは？

事例：インドの国立公園における環境主義

- 西ガーツ山脈：インドゾウ、ベンガルトラなどの稀少動物が生息する生物多様性ホットスポット
- 自然遺産に指定
- 野生生物保護を目的とした法整備、自然保護区化(1950年代～)
- 調査地：カーリー・トラ保護区



森林に暮らす人々の生活

- クンビの人々の生活
- 狩猟採集、焼畑農耕
- 精霊祭祀



- 人々の生活と結びついた「環世界」としての森



グローバル／ナショナルな環境主義の影響



- 野生生物保護法(1972)、国家トラ計画(2007)→稀少な野生生物の保護を優先。
人間の影響を排除



種の保護を目的とした「実験場」と化するトラ保護区

- 1990- 住民参加型の森林管理
- 2007- 国家事業としてのトラ保護、センサス、種の生態を管理
- 国立公園内における監視システムの強化
- 狩猟の禁止、焼畑農耕の禁止

→ 動物種の生存 > 先住民の生存？



Debnarayan Sarker

How to Execute Joint Forest Management Programme Sustainable?

How to Execute Joint Forest Management Programme Sustainable?
Evidence from India



TIGER NEWS	
Four wild tigers killed, tiger parts seized, 12th Oct., 2020	
Wildlife: 14 wild tigers tiger trapped after 20 hour lockdown, released in forest, 8th Oct., 2020	
WILDLIFE NEWS	
Assam's first tiger reserve, 11th Oct., 2020	
Wildlife: 14 wild tigers tiger trapped after 20 hour lockdown, released in forest, 8th Oct., 2020	
PROJECTS	
Four tigers and tiger parts seized, 12th Oct., 2020	
TIGER MORTALITY	
TIGER DEATHS IN 2019	
March to June	24
July to September	24
Total	48
TIGER DEATHS IN 2018	
March to June	25
July to September	25
Total	50

実験場となったトラ保護区における新たな共生とは

- クンビの人々の実践:
- 森林に居住する指定部族 (the Scheduled Tribe) の地位獲得を目指す
- →州政府による「保護の対象」として:「**自然人**」としての自己表象
- 森林権の獲得を目指す＋自然保護活動への参加
- →「権利の獲得」「森林保護の担い手」:**近代的主体へ**
- 儀礼を通した森との一体性の維持



実験性の時代における新たな共生のあり方を提示

さらに・・・ クンビの「知識人」の役割、自然保護区に隣接する工場と廃棄物の問題などについて調査を進める予定

EXPERIMENTAL ECOLOGIES

ご清聴ありがとうございました

